

第11回御所市学校規模適正化推進会議

議事要旨

日時 平成27年5月25日（月） 19時00分～20時45分
場所 市役所本館3階 第1会議室
出席者 委員：田仲会長、辻内委員、山本委員、有家委員、木下委員、田仲委員、齋藤委員、津田委員、川田委員、細川委員、北谷委員、野阪委員、
（欠席は岸田委員、井上委員、向手委員）
事務局：安井、森川、安川、高田、高橋、森田

内容

開会

○田仲会長が挨拶を行った。

確認事項

○第9回御所市学校規模適正化推進会議議事録について
議事録の確認を行い、承認された。

○第9回御所市学校規模適正化推進会議議事要旨について
議事要旨の確認を行い、承認された。

議事

○事例案の検討について

事務局から、これまでの会議意見、将来的な学校数の見通しを踏まえた小中学校再編に向けた事例案を説明した後、協議を行った。

主な意見は次のとおり。

- ・10年先を見越して計画を立てるべき。
- ・御所市の将来を考えた時に学校現場がどうあるべきかが根底にないといけない。
- ・将来的な人口を見ながら行政としてどうあるべきか、学校教育をどうするのか。
- ・子どもの教育のためというのが根底にあるのに、学校数が先走っていると、子どものことが後回しになっている気がする。
- ・子どもたちにどんな教育を与えてあげたら良いかという話をしたい。
- ・御所の教育にどれだけ希望、期待を持ってもらえるかが勝負。
- ・先に沢山の方々の意見を聞くことも一つ。
- ・1校で良いのではないか。それに向かって魅力ある学校づくりを考える。
- ・10年先、20年先には1校になってしまうが、そこまでのプロセスが大事。
- ・1中1小という方向に最終的には進まざるを得ないが、どんな御所市をつくるのかという議論をする場があるべき。

- ・学校の規模だけでなく内容面で子どもにどんな教育をつけていくかを根本的に考えないといけない。
- ・教育は学校という考えを持っていないといけない。
- ・まちづくりの中で学校をどうすべきかという議論をしなければいけない。
- ・10年先に答申に合うような形というのは小中1校1校だ。
- ・目標をはっきりして10年なら10年見定めて、それができるということを見定めて、それに見合う適正規模数を決めていくべき。
- ・1小1中、そこへ向けてがんばっていかないとしょうがない。行政には覚悟を決めてやってもらう。
- ・市費教員を県と同じ給料にしてほしい。それをきちっとしていけば、御所市の特色ある学校づくりとして、25人学級で1小1中になってもやっていける。
- ・議会も一緒になって理解を進めてほしい。
- ・学校数の前に魅力的な学校づくりについて考えないといけないのではないか。
- ・行政と市民が協働して魅力ある学校を考えて答えを出す場を作っていく段階。
- ・子どもたちの魅力ある学校づくりが先か、全体の適正規模が先かは、後先なく共にしなければならない内容だ。
- ・1小1中になる方向にもっていかないといけない。
- ・過渡的な方法も選択肢にあるが、学校を造って、また造ってというわけにはいかないので、1小1中になる。
- ・将来的に1校になるなら、小学校も過渡的に変にくっつけなくとも今のままで進んでいけば良いのではないか。
- ・ゆくゆくは1小1中というのがあるならそれに向けて考えてみて、結果として無理があるなら2校にするというプランはありだが、何校かをくっつけて最後は1校にするという考え方から進めるのはしんどい。
- ・市教委には推進会議後の大きな組織についての考えを示してもらいたい。

○魅力ある学校づくりの検討について

時間の都合上、次回の会議で協議することになった。

その他

○学校規模適正化の推進ビジョン案について

時間の都合上、次回の会議で確認することになった。

○次回の会議について

次回の会議は、6月29日（月）午後7時～、市役所で開催する。

閉会